

テンプス

2016年（平成28年）60号



岩橋善兵衛製作遠眼鏡（大阪府指定有形文化財）



岩橋善兵衛銅像

も く じ

岩橋善兵衛と望遠鏡①ー初めての天体観測ー

/ 講演会「善兵衛の時代の天文学（仮称）」のお知らせ

今秋からはじまります！『貝塚市の70年』を読む会

/ 企画展「貝塚が登場する書物とむかしの教科書」のお知らせ

寄託された吉村家文書（西町）/ 速報 上福寺で地蔵堂廃寺の瓦 発見

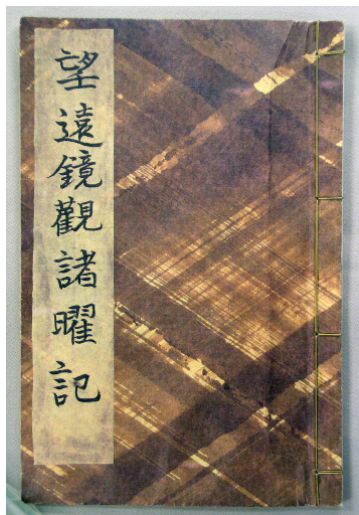
古文書講座

孝恩寺の仏像－菩薩⑤文殊菩薩－/ 水間街道沿いの道しるべ その3

文化財カレンダー

岩橋善兵衛と望遠鏡① - 初めての天体観測 -

来る平成 29 (2017) 年、「貝塚市立善兵衛ランド」は開館 25 周年を迎えます。善兵衛ランドは、天体観測を通じた豊かな感性を培う天文台と、江戸時代の望遠鏡製作者、岩橋善兵衛の功績を広く知ってもらう展示室をあわせもつ天文施設として平成 4 年に開館しました。教育委員会では、善兵衛ランド開館 25 周年記念事業の企画を進めています。その一環として、今後本紙面でも、おもに文献史料の面からその業績を紹介していく予定です。

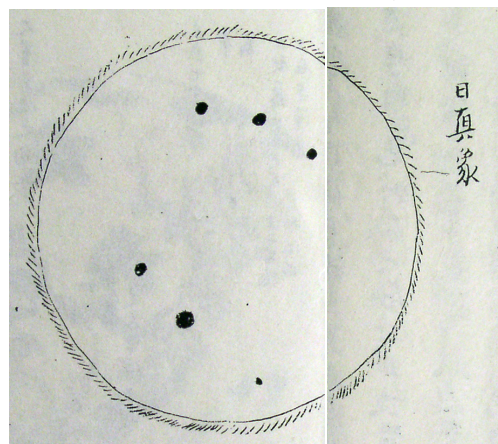


『望遠鏡観諸曜記』

脇浜新町に生まれた善兵衛は、1793 (寛政 5) 年、38 歳の時、自信作の望遠鏡を完成させました。善兵衛は、この望遠鏡を持って京都へおもむき、同年 7 月 20 日、医師である橘南谿 (たちばななんけい) という人物の別宅 (現在の京都市伏見区、宇治川 (淀川) に架かる観月橋の近く) で、善兵衛の望遠鏡を使った記録上初めての天体観測をおこないました。この時の望遠鏡は、筒の形は「八稜 (やかど)」 (= 八角形) で、前の穴は大きく、後ろの穴は小さく、筒の周りは 8、9 寸 (約 24 ~ 27cm)、長さはその 10 倍だったそうです。この観測には京都周辺の知識人たちが参加し、その様子は南谿が著した『望遠鏡観諸曜記』 (ぼうえんきょうかんしよようき) という書物にまとめられました。今回は、その書物に記されている善兵衛の望遠鏡で観測した太陽、月、木星、土星の様子を紹介します。

太陽

太陽の周りに見えるコロナと表面の黒点を観測し、次のようなことが記されています。コロナは「気」と表現され、太陽の周りがある「気」は毛のようで、その「気」は全て左に回っているように見えること、また黒点については、5 つ (図では 6 つの記載) あってそれぞれ大きさが違うこと、そして、この時善兵衛は、黒点が 10 数日かけて表面を移動することや冬から春にかけてその数が多いこと、コロナが朝は右、夕方は左に回っているように見えることなどを南谿らに説明した、とも記されています。

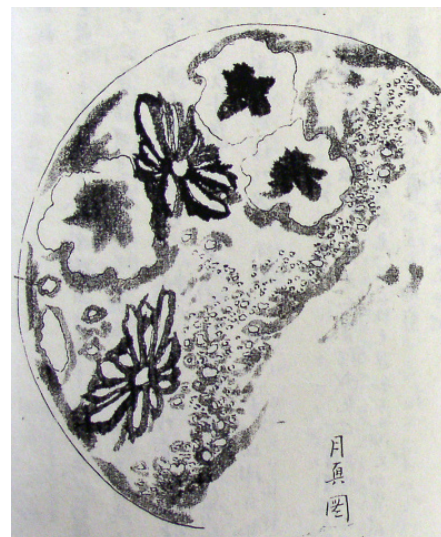


「日真象」図

月

月の欠けている様子や表面にある多数のクレーター、月の海を観測し、次のようなことが記されています。その色は新たに炉から出した銀のようであり、欠けている部分は、肉眼で見ると暗黒だが、望遠鏡で見ると少し暗いが、泡沫 (あわ) のようなものが多数見えること、月の表面には、大きなものは雪輪 (ゆきわ) の紋に似たものが 3 つ、大きな蚕豆 (そらまめ) のようなものが 2 つ見え、小さなものは泡沫のようなものが無数にちらばっていることが記されています。

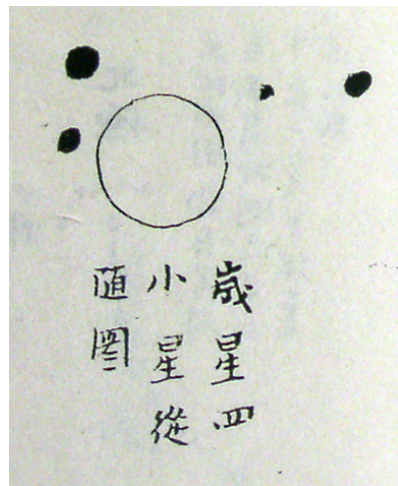
※今回紹介する『望遠鏡観諸曜記』は、貝塚市立善兵衛ランド所蔵の写本複製品です。



「月真図」

木星

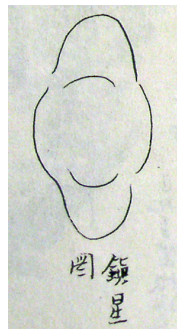
木星は古代中国の惑星の呼び名である「歳星」（さいせい）と記され、その欠けている様子や4つの衛星の様子を観測しています。木星の様子は、まさに満月のように、東側が少し欠けているように見えます。この時南谿は、このわずかに欠けている部分は太陽の光と反対になる部分なので当然だと説明しています。また、衛星について、木星のそばに4つあり、右の2つのうち、遠いものははっきりと、近いものはかすかに見え、他の2つのうち、1つは左に、もう1つはその上に見えんとしてしています。そして善兵衛は、各衛星の位置が以前に観測した時とは違うことを説明した、とも記されています。



「歳星四小星随圖」

土星

土星は古代中国の惑星の呼び名である「鎮星」（ちんせい）と記され、その形は長く米粒のようで、本星の上下にくっつくように2つの星があり、その間には少し境があるように見えるといった内容が記されています。



「鎮星圖」

この時の望遠鏡では、土星の環（わ）ははっきりと観測できず、2つの星のように見えたようです。この時描かれた「鎮星図」は、1610年にイタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡で初めて天体観測をおこなった時の土星のスケッチ図とよく似ています。ガリレオの望遠鏡は14倍望遠鏡であったことから、この時善兵衛が製作した望遠鏡は同程度の性能のものであったと思われます。

また、善兵衛は、太陽の黒点やコロナ、木星の衛星の動きについて、南谿ら参加者に対して、自身が観測した時との違いを説明しています。これは、善兵衛が自身で得た天文学の知識をもとに天体観測を行いながら、自作の望遠鏡を改良していったことを物語る事実です。こうした善兵衛の向学心や探究心はさらに高性能な望遠鏡を生み出し、日本の天文学のさらなる発展に貢献していったのです。

第109回かいづか歴史文化セミナー

講演会「善兵衛の時代の天文学（仮称）」のお知らせ

善兵衛ランド開館25周年記念事業のプレイベントとして、江戸時代の天文学史、日本の科学史等を専門分野とされている嘉数（かず）次人さんを講師に招き、善兵衛が生きた時代の日本の天文学についての講演会を開催します。また、講演会後には、善兵衛ランド展示室の展示解説、12月の星空観望会もあわせて開催します。

日時 平成28年12月3日（土） 午後3時～4時30分

※展示解説は午後5時～5時30分、観望会は午後5時30分～6時30分の予定です。

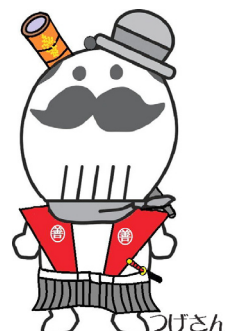
会場 貝塚市立善兵衛ランド 集会室

講師 嘉数次人氏（大阪市立科学館学芸員）

定員 50名

参加費 無料

申込・問合せ 6ページ連絡先へ



今秋からはじまります！『貝塚市の 70 年』を読む会

平成 25 年 5 月の貝塚市制施行 70 年を記念し刊行した『貝塚市の 70 年』を活用し、市民のみなさまに広く地域の歴史に触れていただきながら、地域史学習を深めるとともに、貝塚市への愛着をさらに深めていただくという企画です。

講座の開催を記念して、10 月には『貝塚市の 70 年』編さん委員長を務められた、関西学院大学教授高岡裕之氏を講師にお迎えし、下記のタイトルで講演をしていただきます。11 月以降は『貝塚市の 70 年』を活用した講座を、社会教育課文化財担当職員がテーマに沿ってお話いたします。あわせて参加者のみなさまの体験談などをお聞きし、貝塚市の歴史をより深く掘り下げていきたいと考えています。ふるってご参加ください。

記念講演 ① 10 月 30 日（日）午後 2 時 30 分～4 時

高岡裕之氏（関西学院大学文学部文化歴史学科教授）

「貝塚市の歴史の面白さ—『貝塚市の 70 年』編さんの経験から—」

< 11 月以降の日時・テーマ >

② 11 月 27 日 「発掘から見えてくる貝塚市の歴史」

③ 12 月 18 日 「文献資料から見えてくる貝塚市の古代・中世」

④ 1 月 22 日 「貝塚寺内町と町人」

⑤ 2 月 26 日 「江戸時代の農業と村人の暮らし」

⑥ 3 月 26 日 「明治維新後変わりゆく貝塚」

いずれも日曜日午後 2 時 30 分～4 時

会 場：貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）

入館料・資料代：無料

申込・問合せ：6 ページ連絡先へ



『貝塚市の 70 年』

企画展「貝塚が登場する書物とむかしの教科書」のお知らせ

貝塚市では、子どもたちの読書活動の機運を高めるため、平成 27 年度に策定した「貝塚市子ども読書活動推進計画」に基づき、平成 28 年度より「貝塚市子ども読書の日」を設定しました。

本展は、その関連事業として、貝塚や泉州のことが記された江戸時代の書物や、明治時代から戦前にかけての小学校で使われた教科書類を展示します。江戸時代の木版刷りの本と現代の本の違い、むかしの教科書と現代の教科書の違いをみてみませんか。

あわせて、市民図書館おすすめの歴史図書のコーナーも設置しますので、ぜひこの機会にご観覧ください。

期 間 平成 28 年 10 月 22 日（土）～11 月 27 日（日）

会 場 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館 2 階）

観 覧 無料

休館日 毎火曜日、10 月 31 日（月）、11 月 3 日（木）、23 日（水）

※期間中は、図書館の緊急改修工事のため、図書館の駐車場は使えません。お車でご来館の際は市役所裏駐車場をご利用ください。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

寄託された吉村家文書（西町）

所蔵者と貝塚市との間で寄託契約を取り交わし、今年7月から吉村家文書を教育委員会で保管することとなりました。吉村家は江戸時代に絞油業・金融業を営む商家で、貝塚寺内町の有力町人として活躍しました。近世・近代を通して家業に関する史料が多数確認されています。また、祝儀帳・葬式帳といった冠婚葬祭にまつわるものも多く見られます。特に、佐野湊浦（現在の泉佐野市湊）の文化人 里井浮丘（さといふきゅう）から3代目当主久米吉（梅泉・梅仙）へ届いた書簡が挙げられます。詩歌・書画等について久米吉は、浮丘を師と仰ぎ、堺をはじめ他の泉州の文化人との交流も明らかとなりました。

また、祝儀等の出銀を日記風にまとめた「諸用記」は文政年間から安政年間にかけての貝塚寺内のできごとを把握することができる史料です。とりわけ安政地震（安政伊賀上野地震から安政南海地震に至るまで）の記述は、江戸時代における地震被害のようすを物語る貴重なものといえます。



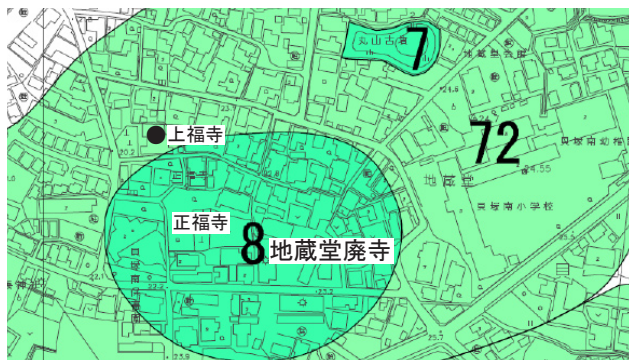
速報 上福寺で地蔵堂廃寺の瓦 発見

地蔵堂にある上福寺で、本堂建替え工事に伴って立会調査(平成28年5月16日～18日)を行いました。

上福寺は、平安時代の寺院跡地蔵堂廃寺に近接する位置にあります。発掘調査で塔の基壇を発見した地蔵堂廃寺と推定される正福寺にも近接しています。

今回の調査では、遺構は確認できませんでしたが、磁器、瓦が出土しています。磁器は江戸時代後半のもの、瓦は平安時代末期から江戸時代のものです。出土した瓦はほとんどが平瓦ですが、軒丸瓦1点、軒平瓦（のきひらかわら）2点が含まれています。軒丸瓦は、複弁八葉蓮華文（ふくべんはちようれんげもん）軒丸瓦というのですが、地蔵堂廃寺で出土したものとは違うものです。軒平瓦は、連珠文（れんじゅもん）軒平瓦、均整唐草文（きんせいからくさもん）軒平瓦で地蔵堂廃寺で出土したものと同じものです。

建替えられる本堂は、棟札より天保13（1842）年の建立であることがわかっており、本堂建立の時の整地により磁器、瓦が混じったものと考えられます。今回の調査で、地蔵堂廃寺の寺域が広がることは確認できませんでしたが、今後もこのような調査の積み重ねによって歴史を明らかにしていきたいと考えております。



連珠文軒平瓦



均整唐草文軒平瓦



複弁八葉蓮華文軒丸瓦

古文書講座 - 市内にのこる身近な古文書 -

◆「ぼっかんさんの江戸参府記」

平成 28 年 6 月 8 日から 7 月 6 日にかけて各水曜日の 5 回にわたり、「ぼっかんさんの江戸参府記」と題して古文書講座を開催しました。

今回は、江戸時代に願泉寺の住職であるとともに、貝塚寺内町の領主でもあったト半（ぼくはん）氏が、將軍の死去に伴い、經典の献上と新將軍に領主としての承認を意味する朱印状をもらうため、



古文書講座の様子

江戸に出向いた際の記録「参府記」の解説を通じて当時の様子を考察しました。

願泉寺は、浄土真宗の寺院であると同時に、將軍家菩提寺（ぼだいじ）（先祖をおまつりする寺）の天台宗寛永寺との結びつきの強さが明らかになりました。その背景には寛永 13 年（1636 年）に 4 代了周（りょうしゅう）が日光輪王寺宮門跡公海（にっこうりんのうじのみやもんぜきこうかい）から得度（とくど）（正式に僧侶となる儀式）を受け、「真教院（しんきょういん）」の院号を与えられたことがきっかけとなり、寛永寺、ひいては將軍家との結びつきが強まったと考えられています。

また、江戸での滞在の際、地元の町人らに宿泊場所の手配を依頼した結果、寛永寺のある上野にほど近い谷中興禅寺（やなかこうぜんじ）が宿泊場所に決定した話や、13 代將軍家定（いえさだ）の靈屋（たまや）へお参りする際に、建物のどの部屋の何番目の畳に座ってあいさつをするといった細かな取り決めなど、これまで貝塚の歴史ではあまり触れられてこなかった内容に受講者が注目しました。

今回は、江戸滞在時の動きを中心に取り上げましたが、次の講座でも同じく「参府記」をテキストにしながらも、道中編を取り上げていきます。貝塚と江戸との道中は、行きが中山道（なかせんどう）、帰りが東海道と異なるコースを旅しており、行列の様子も図示されるなど、人々の動きが詳しくわかるものとなっています。興味のある方は、ぜひとも奮ってご参加ください。

古文書講座 51（通算 242 回～ 246 回）開催のお知らせ

テーマ：ぼっかんさんの江戸参府記～道中編～

日時：第 1 回 平成 28 年 10 月 12 日、第 2 回 10 月 19 日、第 3 回 10 月 26 日

第 4 回 11 月 2 日、第 5 回 11 月 9 日

いずれも水曜日午後 1 時 30 分～ 4 時

会場：貝塚市民図書館 2 階視聴覚室

資料代：100 円

申込：住所、氏名、電話番号を明記の上、はがき・Eメール・FAX、電話いずれかで、下記の連絡先まで事前にお申込みください。

連絡先：〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 12 - 1（貝塚市民図書館 2 階）貝塚市郷土資料室
TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7107
E mail shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

孝恩寺の仏像―菩薩^{ぼさつ}⑤ 文殊菩薩^{もんじゅぼさつ}―

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の 19 軀（く）の仏像が安置され、うち 18 軀が重要文化財に指定されています。今回は、その中から文殊菩薩立像を紹介します。

【重要文化財】木造文殊菩薩立像 1 軀

時 代 平安時代後期（10 世紀）

像 高 169.0 cm

指定年月日 1913（大正 2）年 4 月 14 日

文殊菩薩は、諸仏の知恵をつかさどる菩薩で、釈迦如来の脇侍（きょうじ）として、普賢菩薩とともに三尊としてまつられることが多い仏像です。本像も釈迦如来像（テンプス 43 号で紹介）の左右に普賢菩薩像（テンプス 59 号で紹介）と対にして安置されています。右手に剣、左手に卷子（かんす）を持ち（いずれも後世のもの）、身には唐服（からふく）をまとっているのも、本来は天部（仏教を守る神々）像として造られた像だと考えられます。大部分をカヤの一材で彫り出した一木造の像で、表面には白土下地の上に朱、緑青（ろくしょう）などの彩色をほどこし、頭部の天冠台（てんかんだい）には金箔（きんぱく）を置いています。普賢菩薩像とは顔立ちや服装が異なりますが、ほぼ同じ像高を示し、製作時期も同じ頃のものと考えられます。



水間街道沿いの道しるべ その 3

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。今号では、59 号に引き続き、清児（せちご）にのこる 1 基を紹介します。

水間街道道標 5（清児）

清児を通る水間街道沿いの三差路の一角にある小堂内にまつられている道しるべで、岸和田、貝塚、それぞれの方向を示したものです。

正面に地蔵立像を浮き彫りにし、その左右には「□（右）岸和田」、「□（左）貝塚」と刻まれています。水間寺の参詣からの帰り道、また、和歌山方面から葛城山、水間寺を経て、岸和田・貝塚方面へ向かう人々のためにつくられたものです。地蔵の首の辺りで上下に二つに割れており、一部が補修されています。



※右図の道標 4 はテンプス 59 号で紹介しております。



文化財カレンダー

◆ 10 月

8 日 (土)・9 日 (日) 貝塚だんじり祭

12 日 (水) 古文書講座 51 「ぼっかんさんの江戸参府記～道中編～」
 <貝塚市民図書館 2 階視聴覚室>
 午後 1 時 30 分～4 時 (12 月 9 日まで毎週水曜日連続 5 回)

30 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会① 記念講演



郷土資料展示室

企画展「貝塚
 が登場する書物と
 むかしの教科書」

10/22 (土)



11/27 (日)

「貝塚市の
 指定文化財」展
 第 3 期

12/10 (土)



◆ 11 月

20 日 (日) かいづか歴史文化セミナー「親子で勾玉づくり」
 ※「かいづか 家族の日」関連事業
 <貝塚市立青少年センター プレイルーム>
 午後 2 時～3 時 30 分

23 日 (水) 和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキング
 集合場所：南海本線「岸和田駅」東出口ロータリー
 午前 9 時～午後 4 時 (雨天中止)

27 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会②

◆ 12 月

3 日 (土) かいづか歴史文化セミナー「善兵衛の時代の天文学 (仮称)」
 善兵衛ランド展示解説 / 星空観望会
 <貝塚市立善兵衛ランド> 午後 3 時～6 時 30 分

18 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会③

平成 29 年

◆ 1 月

2 日 (月)・3 日 (火) 水間千本搗餅つき

22 日 (日) 文化財防火デー消防訓練 (孝恩寺)
 「貝塚市の 70 年」を読む会④



水間千本搗餅つきの様子

かいづか文化財だよりテンプス 60 号

平成 28 年 9 月 30 日発行

貝塚市教育委員会

〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

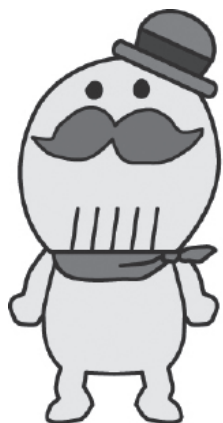
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年 3 回発行：各 1,000 部

印刷単価： 41.50 円



貝塚市イメージ
 キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」
 をモチーフとしたデザ
 イン。
 イベントごとが大好き。
 普段はのんびり、でも
 祭りには萌えます。

